「Harika」 の始まり　と　思い

Harika が拠点としているのは埼玉県川口市
川口市の中でも蕨駅に近い芝地区が主な活動の場

川口市にはトルコから逃れてきて、*難民申請をしているクルド人が
およそ1500人余り　暮らしていると言われています。

地域住民とのコミュニケーションが上手に取れているとは決して言えない中、
地域ではクルド料理教室が公民館で開催されていました。

そんな　クルド人女性との交流から生まれたのが
現在開催されている「オヤ教室」です。
そして、そのオヤ教室の中から生まれたのが「Harika」
オヤ教室の先生方を中心に、クルドのお母さんたちがつくる
オヤの製品を紹介し販売しています。

お彼女たちの作るオヤを販売することで、彼女たちの数少ない
現金収入にも、また日本人と交流する機会も生まれてきます。

長く日本に暮らすクルド人の中には、日本で子供を授かる人も少なくありません。
日本で育つクルド人の子供達にとって、母親が日本語を話せることは
とても大きな意味があります。

子供たちが就学期を迎えると、学校の手紙、幼稚園の手紙、等
今まで以上に　母親が日本語と接する機会が増えてくるからです。

彼女たちの特技を生かしながら、日本人と無理なく接する機会を得、
文化交流をしながら、収入につなげていく事ができればと考えてきました。

最近は　それに加えてもう一つ、
このお母さんたちが、受け継いできた伝統的な手工芸の技術を
クルドの子供たちにも　受け継いでいってもらいたいと
考えています。

*難民申請をしているクルド人

トルコで迫害を受けているとして難民申請をしているクルド人
今だ日本で難民として認められたクルド人はいません。
しかし、だからと言って「難民ではない」わけではありません。
例えばカナダでのトルコからの難民認定率89.4%そのほとんどはクルド人とみられています。